

## 研究・調査報告書

報告書番号	担当
204	独立行政法人酒類総合研究所
<b>題名 (原題/訳)</b>	
Association between two m-opioid receptor gene (OPRM1) haplotype blocks and drug or alcohol dependence. 2つのm-オピオイド受容体遺伝子 (OPRM1) ハプロタイプブロックと薬剤またはアルコール依存性の相関	
<b>執筆者</b>	
Zhang H, Luo X, Kranzler HR, Lappalainen J, Yang BZ, Krupitsky E, Zvartau E, Gelernter J.	
<b>掲載誌 (番号又は発行年月日)</b>	
Hum Mol Genet. 2006 Mar 15;15(6):807-19.	
<b>キーワード</b>	
オピオイド受容体遺伝子、薬剤、アルコール、依存、SNP	
<b>要 旨</b>	
<p> <math>\mu</math>-オピオイド受容体 (MOR) は脳に広く分布し、<math>\beta</math>-エンドルフィンやエンケファリンだけでなく、麻薬 (モルヒネ、ヘロインなど) とともに高い親和性があり、多幸感、無痛覚、麻薬による離脱感をもたらす作用がある。アルコールは MOR と直接的あるいは間接的に相互作用し、薬物依存やアルコール依存との関係も示唆されている。本研究では 382 名の物質依存 (アルコール依存や麻薬依存) のヨーロッパ系アメリカ人、対照として健常な 338 名のヨーロッパ系アメリカ人を用い、OPRM1 のコード領域の 13 の一塩基変異多型 (SNP) を調べた。これらの SNP は 2 つのハプロタイプブロックより構成されており、ブロック I は SNP1~7、ブロック II は SNP8~13 を含んでいる。解析の結果、ブロック I の SNP4 が薬物依存、ブロック I の SNP5 がアルコールと薬物依存、ブロック II の SNP11 と 12 がアルコール依存に相関があることが示唆された。また、ヨーロッパ系アメリカ人だけでなく、247 名のアルコール依存のロシア人と 100 名の健常なロシア人においても OPRM1 とアルコール依存に相関が見られた。以上より、ヨーロッパ系人種を祖先とする人口において、OPRM1 のイントロン領域の変異がアルコールや薬物依存の感受性で重要な役割を果たしていることが示唆された。           </p>	